

經 濟 課

商 工 係

1 商工振興

経営基盤の弱い福生市の中小企業者にとっては、景気回復のきざしがみえてきたとはいわれながらも、その波及効果は遅々たるものであり、一段とけわしいものがあった。

こうしたインフレと不況の事態をのりきるためには、経営者の経営努力と経営方針の転換等がきわめて重要視される。

商工業の振興施策（業務）については、常に商工会と一体となって実施したが、数多くの業務に成果をあげることができたと思う。

(1) 中小企業振興資金

市内中小企業者の資金需要に応じるため特定金融機関から、その事業資金の融資を受けやすくし、企業の振興に資する制度で、特定金融機関に2,200万円の資金を預託し、預託金の5倍までの金額1億1千万円を融資できるものである。

低成長経済の中にあつて、制度資金の需要は強く、融資件数、融資額もそれぞれ増加した。融資限度額については、それぞれ50パーセント引上げ、運転資金150万円、設備資金300万円とした。また、新たに大東京信用組合福生支店並びにときわ相互銀行拝島支店を特定金融機関に指定し、利用者の便宜を図った。

なお、昨年急増した延滞等の事故については、金融機関との連絡を密にし、回収状況は好転した。また、長期の経済不況に対する緊急対策として、利用者の融資資金を据置することにより、資金繰りの緩和を図り、企業の振興に資するため融資金の据置（最高6カ月）の措置をとった。

ア 預託金融機関

埼玉銀行福生支店	三和銀行福生支店
西武信用金庫福生支店	青梅信用金庫福生支店
振興信用組合福生支店	福生市農業協同組合
大東京信用組合福生支店	西武信用金庫拝島支店
ときわ相互銀行拝島支店	

イ 金融機関別預託額

金融機関名	預託額	融資限度額
埼玉銀行福生支店	2,100 千円	10,500 千円
三和銀行福生支店	2,600	13,000
西武信用金庫福生支店	3,400	22,000
	追加 1,000	
青梅信用金庫福生支店	2,700	13,500
振興信用組合福生支店	2,400	12,000
福生市農業協同組合	2,400	12,000
大東京信用組合福生支店	1,000	7,500
	追加 500	
西武信用金庫拜島支店	1,400	7,000
ときわ相互銀行拜島支店	1,000	5,000
合計	20,500	102,500

ウ 申込件数及び決定件数

種別	申 込		決 定	
	件数	金 額	件数	金 額
運 転 資 金	34	36,940 千円	33	35,440 千円
設 備 資 金	14	24,400	11	19,700
合 計	48	61,340	44	55,140

なお、申込みのうち

○ 本人の取下げ 運転資金 1件 100万円 設備資金 3件 470万円

○ 減 額 1件 150万円 → 100万円

その他 信用保証付融資 3件 350万円があった。

エ 金融機関別貸付内訳

金融機関名	貸付 件数	貸 付 金 額	内 訳			
			運 転 資 金		設 備 資 金	
			件数	金 額	件数	金 額
埼玉銀行福生支店	4	5,000 千円	3	3,000 千円	1	2,000 千円
三和銀行福生支店	2	3,000	2	3,000		
西武信用金庫福生支店	15	19,140	11	9,640	4	9,500
青梅信用金庫福生支店	6	9,000	4	5,500	2	3,500
振興信用組合福生支店	5	5,000	4	4,300	1	700
福生市農業協同組合	1	500			1	500
大東京信用組合福生支店	5	6,500	4	4,500	1	2,000
西武信用金庫拜島支店	4	4,500	4	4,500		
ときわ相互銀行拜島支店	2	2,500	1	1,000	1	1,500
合 計	44	55,140	33	35,440	11	19,700

オ 金融機関別融資状況及び運用残高表（昭和48～昭和50）

金融機関名	資金別	昭和48年度		昭和49年度		昭和50年度		総 額		
		件数	融資額	件数	融資額	件数	融資額	件数	融資額	運用残額
埼玉銀行福生支店	運転	1	1,000	3	3,000	3	3,000	7	7,000	3,929
	設備	1	2,000	0	0	1	2,000	2	4,000	3,060
三和銀行福生支店	運転	6	6,000	3	3,000	2	3,000	11	12,000	5,370
	設備	0	0	1	2,000	0	0	1	2,000	1,230
西武信用金庫福生支店	運転	9	8,200	8	6,600	11	9,640	28	24,440	11,168
	設備	2	4,000	1	1,700	4	9,500	7	15,200	4,882
青梅信用金庫福生支店	運転	2	2,000	6	5,600	4	5,500	12	13,100	6,584
	設備	0	0	2	4,000	2	3,500	4	7,500	1,904
振興信用組合福生支店	運転	6	5,500	3	3,000	4	4,300	13	12,800	5,565
	設備	1	2,000	0	0	1	700	2	2,700	634
福生市農業協同組合	運転	2	1,200	7	6,000	0	0	9	7,200	3,096
	設備	1	2,000	0	0	1	500	2	2,500	1,330
西武信用金庫拜島支店	運転	—	—	2	1,500	4	4,500	6	6,000	2,763
	設備	—	—	2	1,000	0	0	2	1,000	2,480
大東京信用組合福生支店	運転	—	—	—	—	4	4,500	4	4,500	4,056
	設備	—	—	—	—	1	2,000	1	2,000	1,800
ときわ相互銀行拜島支店	運転	—	—	—	—	1	1,000	1	1,000	1,000
	設備	—	—	—	—	1	1,500	1	1,500	1,500
総 計	運転	26	23,900	32	28,700	33	35,440	91	88,040	43,531
	設備	5	10,000	6	8,700	11	19,700	22	38,400	18,820
	合計	31	33,900	38	37,400	44	55,140	113	126,440	62,351

(2) 商工団体育成並びに実施状況

福生市商工会（会員数 1,003 人）が実施する商工業振興事業等に対し、商工会補助金算定基準に基づき、商工会管理及び一般振興事業、経営指導員及び補助員の行う経営改善普及事業に要する人件費として、5,863,000 円を、一般事業費として 300,000 円、合計 6,163,000 円を補助した。

なお、商工会事業としては、経営指導員による巡回及び窓口指導を 2,231 件、講習会等の開催により行った集団、個別指導を 1,008 件、その他金融あっせん 342 件をはじめ、税務・経理相談・研修会等を、また、総合振興事業として優良従業員の表彰、珠算検定の実施、また、商業活動調整協議会の活動も、小売業者と消費者利益の保護を配慮し、円満な調整が図られた。

更に、法人会及び青色申告会の福生支部事務局が設置され、税務関係への窓口が一本化されたことは特筆される。

なお、例年行っている商店の近代化の研究・福利厚生事業・広報活動事業・青年部活動等数多くの事業も実施され、会員数も 1,000 人を越え、今後の飛躍が期待される。

(3) 商業施設補助金交付

中央商栄会で設置した駐車場に対し、福生市商業施設補助金交付規則に基づき、駐車場設置費用として、651,000 円を補助した。

なお、駐車場の開設以来駅前通りの違法駐車も減少し、歩行者の安全も確保されつつあり、安心して楽しく買物ができるようになったと評判も良い。

(4) 商店コンクール

低成長経済時代に伴い、消費者の購売力の低下はきびしさを一層増したため、経営状況、店舗施設並びに販売状況、接客状況等の審査を通じて、商店の近代化、消費者に親しまれる商店街づくりを図るよう要綱に基づき商店コンクールを実施した。

実施年月日 昭和 50 年 10 月 22 日（火）

参加店舗 13 店舗

審査員 学識経験者（中小企業診断士）

審査結果は、次のとおり。

最優秀賞 1 店舗

優秀賞 2 店舗

優良賞 5 店舗

努力賞 5 店舗

2 七夕まつり

商業振興の一環として行っている、福生七夕まつりは、東京地区における一大観光事業であるとともに市民まつりとしての要素も含め、年々盛大になっており、本年は第25回目を数えるとともに、市制施行5周年記念行事と合せて新企画を盛り込み、8月7日(木)から10日(日)までの4日間盛大に開催された。

また、観光客については、国鉄・バス・タクシー会社に要請し、輸送対策に万全を配し、都内をはじめ近県から、約60万人の人出でにぎわった。

なお、行事内容は、次のとおり。

(1) 飾り付け並びに竹飾りコンクールについて

※ 飾り付コンクール 8月7日(木)午後7:00～9:30

	第1地区 (中央商栄会)	第2地区 (その他)	合計
竹飾りの部	34	41	75
壁面の部	13	10	23
合計	47	51	98

なお、飾り付参加店舗数は259店

(2) アトラクションについて

月 日	催 し も の
8月 7日 (木)	永年飾り付店の表彰式 おみこし・山車パレード 福生民謡パレード 七夕飾り付コンクール
8月 8日 (金)	七夕飾り付コンクール表彰式 校成グループ音楽隊パレード ミス福生コンテスト 納涼盆踊り大会
8月 9日 (土)	ミス七夕移動撮影会 民音富士吹奏楽団パレード ひょっとこ踊り瑞穂連パレード 郷土芸能の夕べ 素人のど自慢大会
8月10日 (日)	ミス東京・福生パレード 演芸と歌謡の夕べ 郷土芸能の夕べ 陸上自衛隊音楽隊 福生交通少年団パレード

なお、期間中、七夕まつり写真展を陸会館で開催したほか、各関係機関で催した、産業展(商工会)くらしを考える消費者展(消費者展実行委員会)、郷土の酒まつり(西多摩酒造組合、西多摩酒小売商組)、縁台将棋大会(日本棋院福生支部)の会場は、関係者や愛好家に喜ばれ盛況であった。

(3) そ の 他

ア 栄通り以西の交通規則を午後9時30分で解除し、露店出店も午後9時30分までとした。

イ 露店商について、環境保全課及び実行委員会で紙袋・竹ポーキを用意し、清掃についての協力を要請した。

ウ 福生警察署による各種取扱い件数

迷子保護 49 件 拾得物 4 件 少年補導 28 件 スリ 1 件 恐喝 1 件

エ 期間後の行事として、写真コンクールの審査を9月27日(土)に、表彰式を10月19日(日)に行った(応募作品数は、カラーの部 329 点 白黒の部 441 点)。

オ 七夕まつり参加団体に対する感謝状の贈呈式を10月9日(木)に37団体に対し行った。

3 観 光

東京の観光展が3月22日から26日までの5日間、有楽町の交通会館1階ピロティーで開催され、本市も初めて参加した。

この観光展は、今まで他県で開催されていたものであったが、諸般の事情により東京で開催された。

内容については、各地域別(23区・多摩地区・伊豆七島)にレイアウトされ、各市町村の観光ポスター・写真のほか郷土の物産等を展示し、広く都民に、また他県の在京者に紹介するものであった。

本市からは、七夕まつり・ホテルまつりのポスター等を展示したほか、期間中、職員の派遣も、本市の紹介に当たった。

4 統 計

(1) 国勢調査

男女別人口や世帯数、通勤、通学人口及び昼間人口など各調査事項により詳細に集計し、国の行政、都道府県や市区町村の地域社会に直結する行政に役立つ資料を得るために5年に1度実施される国の最も基本的な統計調査で、300調査区により、市内に居住しているすべての人を対象に、氏名及び男女の別、世帯主との続柄等、14項目により、昭和50年10月1日午前零時現在で調査した。

昭和50年国勢調査 (世帯及び人口概数)

世帯数	一 世 帯 当 たり 人 員	人 口			昭和45年人口との比較		
		総 数	男	女	昭和45年 人 口	増減数	増減率(%)
14,777	3.14	46,456	23,282	23,174	37,938	8,518	22.5

(2) 事業所統計調査

事業所の産業別、組織別、従業者規模別などの構成を明らかにし、国や市の行政又は経済政策に役立つ資料を得るために、3年に1度実施される統計調査で、42調査区により市内のすべての会社・工場・店舗・病院・学校などの事業所を対象に、経営組織、事業の種類、従業者数、事業所の形態、事業所の開設時期及び本所・支所の別など事業所に関する基本的な事項について、昭和50年5月15日現在で調査した。

(なお、昭和50年10月1日に国勢調査が実施されるため、事業所統計調査の実施期日を7月1日から5月15日に繰上げられた。)

昭和50年事業所統計調査 事業所概数

事業所数		増加数	増加率
昭和50年	昭和47年	昭和47年～50年	昭和47年～50年
2,007	1,995	12	0.6%

(3) 工業統計調査

「製造業」(日本標準産業分類)に属するすべての事業所(国及び公共企業体を除く。)を対象として、毎年12月31日現在で、8調査区により、事業所数、従業者数、製造品出荷額、原材料使用額などを調査し、工業の実態を明らかにすることを目的に調査した。

昭和50年工業統計調査結果(概数)

50. 12. 31現在

		従業者 19 人以下	従業者 20 人以上	総 数
工 場 数		90	27	117
従業者数	総 数	504 人	1,465 人	1,969 人
	常用従業者数	397 人	1,465 人	1,862 人
	個人事業主及び 家族従業者数	107 人		107 人
現金給与総額		52,103 万円	281,909 万円	334,012 万円
原材料使用額		58,227 万円	937,297 万円	995,524 万円
製造品在庫額等	製 造 品	年初	132,045 万円	132,045 万円
		年末	151,453 万円	151,453 万円
	原材料及び燃料	年初	62,604 万円	62,604 万円
		年末	60,799 万円	60,799 万円
	半製品及び仕掛品	年初	29,106 万円	29,106 万円
		年末	19,966 万円	19,966 万円
有形固定資産	年初現在額	17,884 万円	416,137 万円	434,021 万円
	取得額	3,173 万円	222,052 万円	225,225 万円
	除却額	247 万円	26,997 万円	27,244 万円
	減価償却額	2,092 万円	57,386 万円	59,478 万円
製造品出荷額	総 数	170,226 万円	1,570,355 万円	1,740,581 万円
	製造品出荷額	115,850 万円	1,534,994 万円	1,650,844 万円
	加工賃収入額	49,921 万円	18,630 万円	68,551 万円
	修理料収入額	501 万円	1,165 万円	1,666 万円
内国消費税額		3,954 万円	15,566 万円	19,520 万円

消 費 生 活 係

1 消費者意識の啓発

現在の複雑多様化した消費生活環境の中で、かしく判断し、消費者としての権利が主張できると共に、行動できる消費者となることが望まれます。そこで、このような消費者づくりのために、次のような方法で、消費者意識の啓発に努めた。

(1) 情報の提供

ア 消費者啓発用パンフレット、リーフレットを作成した。

イ 消費者コーナーボックス（市内6箇所）、消費者グループを通じてパンフレット等を配布した。

ウ 市広報消費者コーナーを通じての啓発をした。

(2) 講演会、懇談会、施設見学会等

ア 「食品添加物」についての講演会を実施した。

イ 「特殊販売」についての講演会を実施した。

ウ 「やさしい野菜類の作り方」の講演会を実施した。

エ 牛乳工場、薬用植物園の施設見学会を実施した。

オ ハム工場、ワサビ工場の施設見学会を実施した。

カ 「美容・理容業者」との懇談会を実施した。

(3) 消費生活展

市内の生活学校や消費生活モニターが学んできた消費生活に関する知識を、消費者に知らせることにより、より多くの消費者に意識を定着させるため、東京都の移動消費者展との共催により「みんなの消費者展」と題して実施した。

ア パネルと展示品により、わかり易く解説した。

イ 消費者相談を実施した（相談件数29件）

ウ 簡単な食品テストを実施した。

エ 映画コーナーを設け、消費者向け映画を随時上映した。

2 消費者相談

消費者の日常生活における、商品及びサービスの取引に伴い発生する苦情等を、関係行政機関との連携のもとにすみやかに処理をした。今年度は特に訪問販売によるトラブルが多く目立った。

- 相談件数〔42件〕
（内訳）

食品関係	6件
繊維関係	3件
雑貨関係	30件
その他	3件

3 消費生活モニター

消費者が、消費生活上最も感心をもっている意見・要望・苦情等を市内一般家庭婦人から聴取し、その実態をは握するため、婦人20人に委嘱し、アンケート・小売物価統計調査、講演会等への参加をとおして貴重な意見等をいただき、より一層の消費者行政の推進を図った。

4 物価対策

(1) 小売物価統計調査

市内の小売を主とする店舗を対象に、市民の日常生活に密着した34品目の小売物価の変動を調査した。

(2) 青果物廉売事業

市内の青果小売商連絡協議会と協力、青果物の安売デーを実施した。この事業は、消費生活に密着した生鮮食料品でもあり、物価対策の一環として位置づけ、積極的に後援している。

また、消費生活モニターのアンケート結果でもその75パーセントが“継続してほしい”との回答が出ているので、なお、一般消費者に定着するよう青果商の団体とも協議を重ね、更に発展するよう努力している。

ア 昭和50年11月から毎月第二・第四土曜日の月2回

イ 参加店：市内全域41店舗

ウ 3品目の原価販売とする。

エ 品目については自由。ただし、消費者に責任をもって推せんできるものとする。

(3) 進入学用品割引セール

児童・生徒をもつ保護者負担の軽減を図るため、進入学用品を扱う市内各種小売業者と協力割引セールを実施した。

ア 参加店：5業種37店舗

イ 3月1日から10日までの10日間

ウ 割引率は、各業種とも最底10パーセントとする。

エ 品目は、進入学に際し、必要と思われるものを各店が指定した。

オ 割引方法については、対象者全員に割引券を配布した。

5 計量器検査

計量器は、消費者が上手な買物をし、合理的な生活を営むうえで重要な役割を果たしている。そこで、東京都計量検定所及び東京都計量協会に協力、事業所用計量器定期検査並びに家庭用計量器の無料検査及び修理を実施した。

事業所用計量器定期検査

	検査数	合格	不合格	不合格率
計量器	683	661	22	3.2%

家庭用計量器の無料検査

	検査数	合格	不合格	不合格率
計量器	734	672	62	8.4%

6 家庭菜園

本年は、北田園地区に1箇所新設し、合計7箇所となった。

菜園の名称	位置	面積	区画数	申込者	倍率	開設年月日
熊川東	熊川247.412	1,980㎡	150	181	1.20	49.4.1
加美平	福生1,518	1,064	80	274	3.40	49.4.1
加美平第二	福生1,617	652	48	193	4.00	49.5.1
鍋二	熊川1,347	2,110	160	269	1.70	49.7.1
牛浜	牛浜102	900	68	167	2.40	50.4.1
南田園	南田園3-4-5	1,005	87	261	3.30	50.4.1
北田園	北田園1-8-7	1,115	85	205	2.50	50.7.1
計		8,826	678	1,550	2.27	

農 務 係

農業振興

市内の農業経営は、都市化の影響により、ますます困難な時期を迎えた。このような現状の中で、飛行機の離着陸による農耕阻害申請手続・家畜に対する予防注射・農業共済に関する事務手続等を実施した。

また、農業委員会と連絡をとり農家に対する各種調査を行い、諸問題を見いだすことができ、本年度は特に多摩河原区画整理完了後における田園地区の土壌検査を西多摩農業改良普及所の協力を得て行い、農業の育成指導及び保全に力を入れこれを実施した。

緑化推進及び緑化保全

緑化推進事業としては、昭和47年度から実施している出生児に対する市の木の配付、公共施設に対する樹木の植樹及び昨年度に引き続き市内の農家へ苗木育成の委託を実施し、良好な成果をあげられた。

緑化保全事業は、アメリカシロヒトリの防除作業を中心に不用樹木の無償譲受け等を実施した。

また、10月には、福生市の緑を守り育てる条例が公布され、従来緑地保全要綱に基づき指定を行ってきた、A農地・B農地及び平地林に加え、準山林の指定を行うと共に緑化標語、緑化ポスターの募集を実施する中で、緑化に対する啓蒙活動を図った。

1 農耕地・農家戸数調査

農 耕 地 調 査		農 家 戸 数 調 査	
区 分	地 積	区 分	戸 数
田 ・ 畑	6,614 a	30 a 以下	235 戸
樹 園 地	546 a	31 a ~ 50 a	56 戸
茶 園	123 a	51 a ~ 100 a	25 戸
桑 園	481 a	100 a 以上	2 戸
計	7,764 a	計	318 戸

2 経営者等調査

区 分	頭 羽 数	戸 数
ソ 菜 経 営 者		
養 蚕 経 営 者		4 戸
植 木 生 産 経 営 者		
乳 牛 飼 育 者	5 1 頭	1 2 戸
養 豚 飼 育 者	2 3 頭	1 6 戸
養 鶏 飼 育 者	2 7 5 羽	1 8 戸

3 緑化推進事業

(1) 出生記念樹配付

昭和50年4月1日～昭和50年9月30日生 10月実施

515人該当 339本配布 配布率65.8パーセント

昭和50年10月1日～昭和51年3月31日生 4月実施

419人該当 307本配布 配布率73.2パーセント

合計 934人該当 646本配布 配布率69.1パーセント

(2) 公共施設植樹

学校関係 サ ツ キ 50本

チンチョウゲ 50本

そ の 他 731本

公園関係 ツ ツ ジ 350本

桜 11本

そ の 他 60本

市民体育館関係 シラカバ 1本

しだれ梅 2本

そ の 他 4本

市役所関係 ツ ツ ジ 190本

加美平供用施設 タマイブキ 10本

ツ ツ ジ 10本

そ の 他 5本

(3) 不用樹木の譲受け

松	94本
桜	11本
さざんか	23本

(4) 苗木育成委託事業

(目的)

福生市における緑化を積極的に推進するため、市内の農業者に引き続き3年間緑化用苗木の育成管理を委託する。

委託者	市内農業者	3人
面積	2,223	平方メートル
圃場場所	福生市志茂112番地 福生市北田園2丁目18番5号 福生市武蔵野台1丁目16番9号	
委託期間	昭和50年4月1日	～ 昭和53年3月31日
品種及び本数	もくせい(市の木)	2年生苗木 4,200本
	つつじ(市の花)	2年生苗木 4,000本
実績	管理状態も良く、幸い天候にも恵まれたため、育成苗木の成長もよく53年3月収穫期に向けて順調に推移している。	

(5) 福生市苗木圃場

緑化保全の一環として、一般家庭より不用樹木を譲り受け、公共施設等への植樹の際の仮植場として、市の圃場を設け、福生市植木苗木生産組合との間で委託契約を締結し、この圃場に対する植木の病虫害予防・防除・除草等をし管理運営を行った。

圃場場所	福生市南田園3丁目4番～5番の内		
面積	48,242平方メートル		
植樹本数	503本		
植樹内訳	もくせい(小) 245本	もくせい(大) 1本	
	センダン 71本	松 94本	
	その他 92本		

4 緑化保全事業

(1) 緑化保全事業

昭和50年10月に公布された福生市の緑を守り育てる条例に基づき、従来指定を行ってきたA農地、B農地及び平地林に加え、準山林(崖地等の山林)の指定も実施した。

種 別	件 数	筆 数	面 積
A 農 地	2 件	3 筆	2,810.68 m ²
B 農 地	164	459	340,605.99
平 地 林	16	40	55,094.00
準 山 林	3	6	1,174.00
計	185	508	399,684.67

(2) アメリカシロヒトリ防除事業

区 分	駆 除 本 数	防除人員 (延)	薬 剤 本 数
6 月	桜 639 本 桑 84 本 柳 32 本 ブラタナス 76 本 柿 103 本 その他 905 本	37 人	DEP (ディフテレックス) 21 本 DDVP (デッパ) 21
7 月	桜 1,236 本 桑 758 本 柳 203 本 ブラタナス 201 本 柿 187 本 その他 4,132 本	133	DEP 9 0.5 DDVP 9 0.5
8 月	桜 983 本 桑 1,238 本 柿 785 本 ブラタナス 114 本 柳 32 本 その他 1,529 本	123	DEP 4 0.5 DDVP 4 0.5
9 月	桜 882 本 桑 768 本 柿 523 本 ブラタナス 101 本 柳 29 本 その他 1,697 本	36	DEP 3 4.5 DDVP 3 6.5
合 計	桜 3,740 本 桑 2,848 本 柿 1,598 本 ブラタナス 492 本 柳 296 本 その他 8,263 本	329	DEP 18 6.5 DDVP 18 8.5